

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	道路自然災害防止事業	会計	一般会計	事業No.	562	施策順No.	41-013
		事業種別	政策・重点	予算科目	8-2-3-12-9		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	土木課		
施策	41 災害対策の推進		事業期間	開始	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市地域防災計画 交通施設災害予防 道路危険か所						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		整備済危険か所延長(m)	4380	4470	4542	4592	4672		
	意図	道路危険か所の法面崩壊及び土石流等の防止工事							
対象をどう変えるか	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		道路自然災害防止完了か所延長(m)	120	90	72	80	50	80	C
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	落石防止のため道路上の法面に対し、当初モルタル吹きつけで計画していたが、安全性を考慮し、法面安定のためコンクリート吹きつけとしたため、施工延長の実績が伸びなかった。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>飯田市地域防災計画により、道路危険か所の維持・改築を行い法面崩落、落石等を未然に防ぎ、道路の安全性を確保する。</li> <li>交通施設(道路)危険か所 65路線 9,500m(72か所)のうち24年度までに4700m整備する、平成22年度末で4,592m概成。</li> </ul>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	測量調査・工事施工 (1)市道千代28号線 千遠線 (2)市道2-78号山中線 山中いろは坂	(1) 施行延長 (2) 施行延長	計 L=56.5m (1)L=44.0m (2)L=12.5m
23年度実施計画	測量調査・工事施工 (1)市道千代29号線 法全寺 (2)市道2-78号山中線 山中	(1) 施行延長 (2) 施行延長	計 L=80.0m (1)L=60.0m (2)L=20.0m

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金				特定財源内訳、補足事項 (地) 自然災害防止(充当率100%)
		県支出金				
		起債	7,800	7,800	7,800	
		その他				
		一般財源				
	計(A)	7,800	7,800	7,800		
	正規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)		0			
	トータルコスト A+B		7,800			

4 事業に対する市民や議会の意見

安全な市民生活のため、市民や議会より危険個所の調査や早期改良要望が出されている。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞り者、財産の災害や火災の被害を軽減する	施策の成果指標又はムツ指標	市民が災害にそなえている割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	交通施設(道路)危険か所 に掲載されている、道路危険か所(65路線)の維持・改築を行うことは、法面崩落、落石等の災害を未然に防ぎ安全を確保する。		
	後期に向けた課題	交通施設(道路)危険か所 65路線 9,500m(72か所)の内、平成24年度までに4700mの整備を目標としているが、残延長が多いことから効率的な整備が必要となっている。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	緊急性が高く、地元からの改修要望が強い順から現地調査を行い、施工方法、施工範囲を検討し改良を行った。		
	後期に向けた課題	交通施設(道路)危険か所 65路線に掲載されている危険箇所を元に優先順位が高く、地元要望も強い箇所を優先的に整備を進める。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	現地調査を行い、予算の範囲内で行うことの可能な、必要最小限で効果の出る範囲を検討し施工している。		
	後期に向けた課題	出来る限り単年度において集中して工事し、効果の上がる施工を検討する。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市の管理する道路施設で市の関与は当然であり、受益者負担は他に求める余地はない。		
	後期に向けた課題	市の関与、受益者負担を考慮する余地はない。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	事業主体は市であり、事業実施における調査、計画(設計)、施工管理は市が行っている。地元の改良要望、現地調査における資料提供、地元の取りまとめ等地元の役員の方をお願いしている。		
	後期に向けた課題	事業主体は飯田市、地元の協力を得るべく、説明義務を果たしていく。		
全体を通じて	4年間の振り返り	着実に事業実施が出来ている。		
	後期に向けた課題	交通施設(道路)危険か所 65路線 9,500m(72か所)の内、平成24年度までに4700mの整備を目標としているが、残延長が多いことから効率的な整備が必要。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------